

天然砕石で地盤改良

おいらせ町の土木建築業・沼栄工業は、天然砕石による地盤改良工法「HYSPBED（ハイスベド）工法」を活用した事業展開を進めている。従来のセメントを使用した工法

70

北奥羽企業通信

とは違い、土壌汚染など悪影響を与えず、環境に優しい取り組みとして注目を集めている。工法は、直径400ミリのドリルで地盤を掘削した後、20〜40ミリの天然砕石を次々と投入。側壁と底部に圧力をかけ、締め固めしながら砕石によるパイロットの強度を高める仕組みだ。最大で深さ約7メートルまで掘削できる。

沼栄工業

(おいらせ町)

〇×モ
所在地はおいらせ町東後谷地38の2。沼栄一彦社長。2005年5月設立。資本金500万円。従業員数40人。電話は0178-5220000。



天然砕石による地盤改良工法を利用し事業展開する沼栄工業の沼端一彦社長

水圧逃し液状化食い止め

水を通すため水圧を逃がす効果があり、地震による液状化を事前に食い止めることができるといふ。

唯一の代理店。沼端一彦社長は「これまで土木業がメインだったが、新幹線建設工事が終わり、次に何をしようか考えていたときにこの工法に出合った」と導入の経緯を説明。

以降、県内外で一般住宅や老人福祉施設など30件以上の施工実績を持つ。現場ごとに地盤の状況が異なるため、打ち込む砕石パイロットの本数や深さは異なる。沼端社長は「環境に配慮している上、コストも安い。さらに地震にも強いのが売り。安全な地盤を提供したい」と意気込む。

(随時掲載)